

歌誌 黄雞「冬号」投稿歌

山形 黒沼 貞志

歌題 アンソロジー 2016〜2020 IV

溢れ出づ矜持なき言葉の番組に嫌悪先立ちチャンネル変えたり

心地よしひとをつなげる浅き夢温む床にてまたまどろみへとこ

年重ね病を得れば何事も回復時間は長くなりけり

水槽の間に揺蕩う群れ海月見上ぐる人らの想いと無縁

新月の波間に瑠璃なす螢鳥賊ハンター列なす朝まずめの浜

魅せられし躑躅語らぬ夫婦おり二人で夢中のインスタグラム

お盆前草木蔓延る墓掃除我に代われる守人何処

異常気象繰り返されて日常に慣らし隠すは為政の怠慢

この国の後を絶たない弥縫策遠のく気概「名こそ惜しけれ」

対岸の火事では済まぬイタリアの橋の崩落明日の日本

散歩路子犬ら休ます昼下がり主もスマホで休憩タイム

風が凧ぎさゞ波消ゆる地獄沼逆さ紅葉の綾錦織る

地方紙の一面トップを飾りたる大阪なおみに風花舞えり

新しく生まれし言葉「バイトテロ」身近に迫るモラルの瓦解

辿り着く一つの成果終活の次のテーマは我が家の過去帳